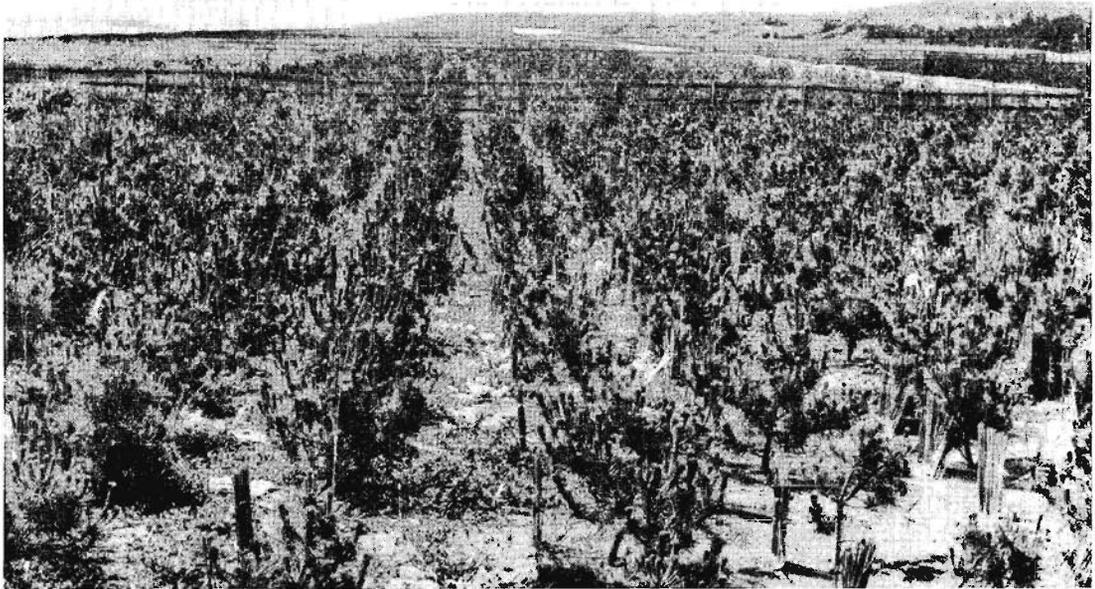


東北の 林木育種

NO.97 1982.5



海岸林造成に供されるクロマツ育種苗

三面を海にかこまれ海岸沿線が長い青森県では、高潮や潮風および飛砂などによる災害から地域住民の生活環境を守り産業の開発をはかるため、海岸林の育成が極めて重要な施策となっている。

本県には約5,000haの海岸防災林があり、これらの内訳は飛砂防備林が36%、防風林が64%、潮害防備林が若干となっている。林齢別には若い林分が多いが、反面保安林機能が低下した高齢な林分も少なくない。

県行造林による海岸防災林の造成は古くは昭和8年に大平洋側では市川（現八戸市）・三沢（現三沢市）で、日本海側では出来島（現木造町）で実施した記録がある。最近では国で定めた治山事業5か年計画にもとづいて海岸防災林造成が進められているが、海岸は立地条件が非常にきびしいので、その造成は並大抵なものではない。植栽した苗木が早く健全に成育することがなによりも望まれており、こうしたことから生長の早いクロマツ育種苗に期待が寄せられ、昭和52年から始まった第5次治山事業5か年計画（昭和52年～56年）による海岸防災林造成事業には、当场で生産されたクロマツ育種苗が供給されている。

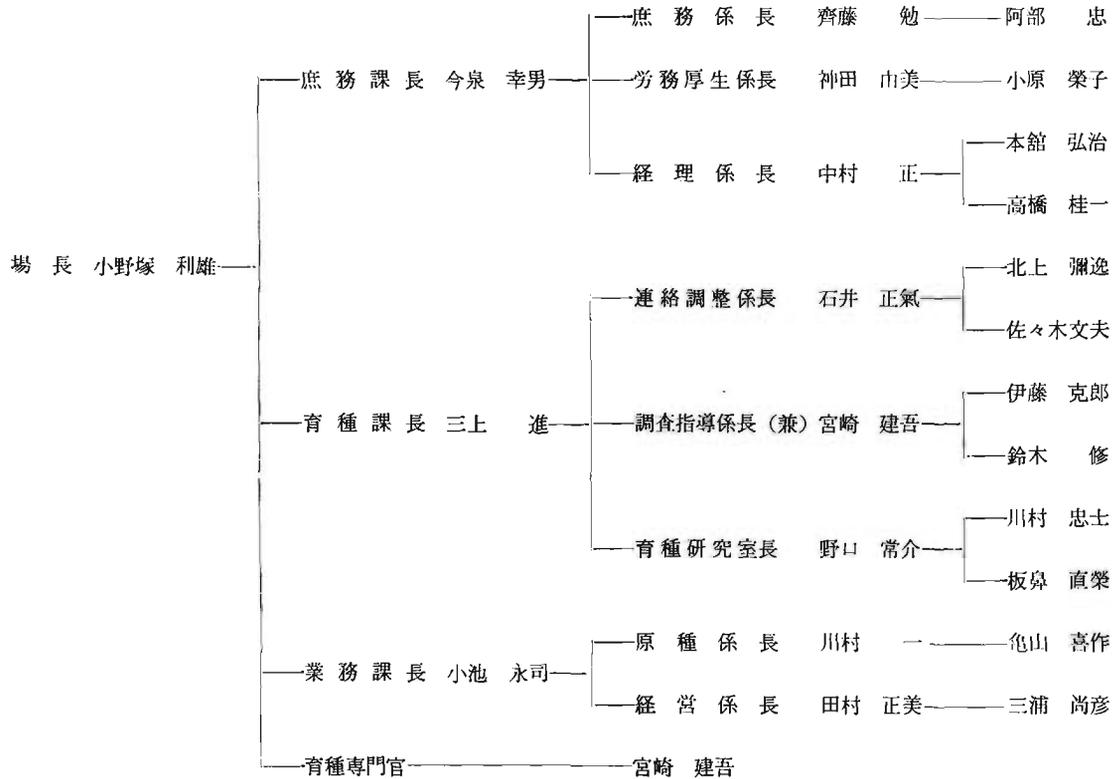
本県のクロマツ採種園は昭和41年～42年にかけて2か所・2haが造成されており、種子の生産も順調に増加している。最近では本県が必要とするクロマツ種子の70～80%が採種園から生産されるまでになった。採種園産種子から得られた育種苗が経済林造成用ばかりでなく海岸林造成用にも供されることは、森林にたいする公益的機能の要請が高まってきている現在、意義の深いものがあると思われる。

写真は昭和54年～55年にわたり育種苗で造成された県行海岸防災林（青森県三沢市織笠）である。海岸防災林造成に供されたクロマツ育種苗はこれまでに725千本に達しており、なお本年度は195千本が予定されている。

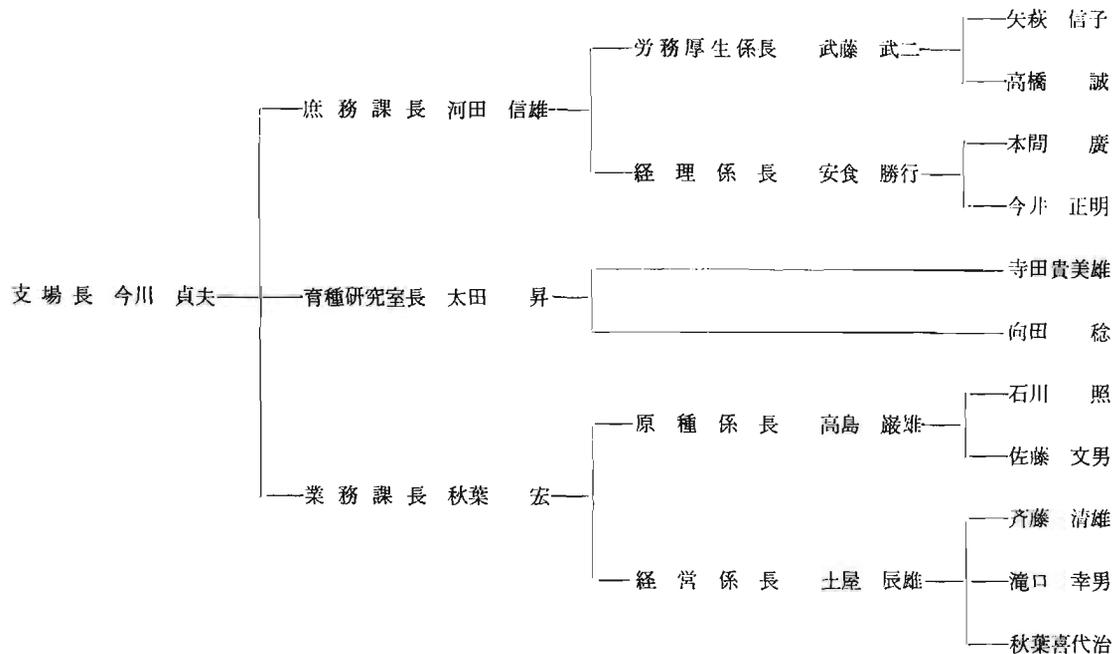
（青森県林業試験場十和田支場 辻村 章）

東北林木育種場の組織と担当職員（昭和57.4.1現在）

◇東北林木育種場：岩手郡滝沢村大字滝沢字大崎95（〒020-01）Tel 0196（88）4517



◇奥羽支場：東根市神町南2-1-1（〒999-34）Tel 02374（7）0219 支場長室（7）0220



東北育種基本区 国有林民有林関係組織と担当者名簿 (昭和57.4.1現在)

青森営林局：青森市柳川2-1-1 (〒030), Tel 0177 (81) 2111

経営部長 (山本武義) 一造林課長 (中村謙吉, 内線 316) 一課長補佐 (佐々木公三, 内線 317) 一種苗係長 (柴田三郎, 内線 322) 一 (木村孝五郎, 石黒信子) なお、青森営林局にはスギほか4樹種の採種園22か所が造成されている。この管理施業は所在する営林署の経営課造林係 (種苗係) が担当し、種苗事業所 (担当区事務所) で実施している。採種園が所在する営林署は、今別・増川・中里・金木・大間・乙供・久慈・盛岡・花巻・水沢・遠野・川井・大船渡・気仙沼及び仙台の15署である。

青森県：青森市長嶋1-1-1 (〒030), Tel 0177 (22) 1111

農林部長 (赤木壮) 一次長 (山内恒男) 一林政課長 (鶴賀泰美) 一造林班長 (三上昇, 内線3292) 一主査 (玉川宏)

林業試験場：東津軽郡平内町大字小湊字新道46-56 (〒039-33), Tel 01775 (5) 3257

場長 (川合昭) 一次長 (奈良貢) 一研究管理員 (中島儀平) 一造林科長 (赤坂正一) 一 (兼平文憲, 一戸文爾) 同十和田支場：十和田市大字相坂字高清水387 (〒034), Tel 01762 (3) 3055

支場長 (斉藤正宏) 一主任研究員 (辻村章, 小平伊七)

岩手県：盛岡市内丸10-1 (〒020), Tel 0196 (51) 3111

林業水産部長 (千葉毅) 一次長 (田代太志) 一林業課長 (斉藤隆, 内線2381) 一課長補佐 (後藤敏夫, 内線2387) 一造林種苗係長 (吉見眞三) 一 (西村和明)

林業試験場：岩手郡滝沢村大字滝沢字砂込737 (〒020-01), Tel 0196 (88) 4131

場長 (菊池助太郎) 一育林部長 (照井隆一)

林木育種場：江刺市稲瀬字瀬谷子195-2 (〒023-11), Tel 01973 (5) 4529, 3346

場長 (八重樫良暉) 一次長 (昆野俊弘) 一主任 (柏実) 一 (佐藤巖, 工藤博, 氏家誠吾, 及川英治, 千葉昭二)

宮城県：仙台市本町3-8-1 (〒980), Tel 0222 (63) 2111

水産林業部長 (八巻国郎) 一事務次長 (阿部光郎) 一技術次長 (小林甚八) 一森林造成課長 (浦壁宏平, 内線830) 一造林係長 (今野孜, 内線832) 一 (菊地新也)

林業試験場：黒川郡大衡村柵木14 (〒981-36), Tel 02234 (5) 2816, 4171

場長 (永井正美) 一育種部長 (村上幸雄) 一育種科長 (加藤悟郎) 一主任研究員 (遠藤輝男) 一 (田畑正紀, 瀬戸一男)

秋田営林局：秋田市中通5-9-16 (〒010), Tel 0188 (33) 4261

経営部長 (宮川俊直) 一造林課長 (遠藤昭, 内線 210) 一課長補佐 (土門洋一) 一種苗係長 (大野貞雄, 内線 276) 一 (神成則夫, 諸井忠明) なお、秋田営林局にはスギほか1樹種の採種園16か所、スギ採種園12か所が造成されており、これら採種・穂園の管理施業はこれらが所在する営林署の経営課造林係が担当し、種苗事業所 (担当区事務所) で実施している。

採種・穂園が所在する営林署は、十和田、花輪、大館、早口、鷹巣、二ツ井、能代、五城目、秋田、角館、大曲、増田、本荘、新庄、真室川、向町、村山及び山形の18署である。

秋田県：秋田市山王4-1-1 (〒010), Tel 0188 (60) 1621

林務部長 (輪湖元彦) 一次長 (高山正) 一技監 (渡辺正昌) 一林政課長 (東海林一郎, (60)1637) 一主査 (進藤隆男) 一課長補佐 (斉藤俊治) 一造林担当主査 (奥山茂, (60)1630) 一主任技術員 (浜辺康男) 一 (石黒信一)

秋田県林業センター：河辺郡雄和町大字椿川字奥椿台193 (〒010-12), Tel 01888 (2) 2027

所長 (成田喜久弥) 一育種部長 (石川重雄, 内線31) 一原種科長 (石田秀雄, 内線34) 一主任技術員 (小田島一郎) 一 (遠山春男), 一種苗係長 (原田実, 内線32) 一 (大井牧夫) 一圃場 (阿部功)

山形県：山形市松波2-8-1 (〒990), Tel 0236 (30) 2530

農林水産部長(高橋和雄)一次長(木村恒男)一林業課長(今野敏雄, (30) 2533)一林務主幹(常井主水)一技術補佐(高橋弥)一環境緑化主査(山田力, (30) 2531)一林業専門技術員(原田章彦)

林業試験場：寒河江市寒河江丙2707 (〒991), Tel 02378 (4) 4301

場長(矢作一雄)一造林部長(山田富士雄)一主任専門研究員(佐藤啓祐)一研究員(三浦直美)

林木育種場：東田川郡羽黒町大字手向字院主南1 (〒997-02), Tel 023562 2157, 2158

場長(鈴木佑一)一副場長(菊池範二)一技術主査兼育種係長(荒井正美)一種苗緑化係長(加藤益之助)一(高橋勝利)

前橋営林局：前橋市岩神町4-16-25 (〒371), Tel 0272 (31) 0611

経営部長(川上直)一造林課長(篠原賢司, 内線320)一課長補佐(高井明)一種苗係長(佐藤善光, 内線323)一(根岸伊勢雄)なお, 前橋営林局の育種事業は新潟県下の国有林が当基本区に属し, ここにスギ及びアカマツの採種園3か所, スギ採種園3か所がある。これら採種・穂園の管理施業はこれらが所在する営林署の経営課種苗系(造林係)で担当し, 種苗事業所(担当区事務所)で実施している。採種・穂園の所在する営林署は村上・新発田・村松・六日町及び高田の5署である。

新潟県：新潟市学校町1-602 (〒951), Tel 0252 (23) 5511

農林水産部長(山田稔)一治山課長(石井英一, (28) 3661)一副参事(田中公喜, 内線3381)一緑化係(小田豊, 内線3373)

林業試験場：岩船郡朝日村大字鶉渡路 (〒958), Tel 02547 (2) 1171

場長(伊藤昭)一造林課長(松田氏淑)一(本間英樹, 伊藤信治)

福島県：福島市杉妻町2-16 (〒960), Tel 0245 (21) 1111

農地林務部長(城野忠雄)一次長(業務)(佐々木英彦)一林業指導課長(田中義昭, 内線3730)一造林係長(佐藤正直, 内線3735)一主査(大関昌平)

林業試験場：郡山市安積町成田字西島坂1 (〒963-01), Tel 0249 (45) 2160

場長(須藤一郎)一育種部長(今野哲哉)一専門研究員(渡辺政善)一主任研究員(伊藤輝勝)

あ と が き

土と水と太陽エネルギー, この三つのバランスが実にうまくとれている国「日本」は世界一の「資源大国」である。そこでは, 繰返し繰返し生物資源が生産される。これは石油のように涸渇してしまうことはない。——との論説を読んだ。

また, 世界の森林事情に目を転ざると, 「西歴2000年の地球」と銘打った米政府の報告書では, 森林の大巾な消滅, 砂漠化の急進等とそれに伴う諸種のショッキングな予測が出されており, 人類生存のためにも森林造成が不可欠となってきている。

永々として営まれる森林経営の中で, その最も基礎的な分野を担う育種の重要性を再認識させられる昨今である。

(編集委員長)

人事異動のお知らせ

(57・3・25)

命 東北林木育種場業務課経営係長
水沢署種苗事業所主任 田村 正美

(57・3・31)

命 林野庁業務部業務課林道班補修係長
育種課育種研究員 井上 幹博

昭和57年5月1日発行

編集 東北林木育種場
岩手県岩手郡滝沢村滝沢
TEL0196(滝沢駅前局)88-4517(代)
印刷所 杜 陵 印 刷